



## 「伝えたい・聞きたい」という思いを大切に

令和4年1月13日(木)、本センターと連携協定を結んでいる佐那河内小学校の校内研修会にお招きいただきました。「言語活動の充実に向けて」というテーマのもとに、実践的な内容の研修を行いました。外国語活動・外国語科における「言語活動」、さらに「言語活動を通して」とはどういうことか等、活動を交えながら具体的に体験していただく機会となりました。

Small Talk では、既習表現の定着と会話を続けるという二つのねらいを踏まえて、自分のことを伝えたり、短いフレーズを使って反応したりすることをご紹介しました。目的・場面・状況により表現の仕方が異なることや、教科書にあるチャンツやゲームに少し工夫を加えたら言語活動につながることに気付いていただけたかと思います。

「語彙や表現を練習し増やすことで話せるようになる」という従来の指導観から、「自分の考えや気持ちを伝えることを通して新しい語句や表現に出会う」というように指導者が発想を切り替えることが大切だと考えます。「伝えたい・聞きたい」という思いがなければ、生きた言葉にはなりません。子どもたちは、間違えたり立ち止まったりしながら時間をかけて言語を獲得していきます。指導者は、その過程を大切にしながら指導していくことが、今後ますます求められるでしょう。

参加者の先生方からは「英語に苦手意識をもっていても楽しく参加することができた」「無理をせず、少しの工夫で言語活動につながることができると分かった」などの感想をいただきました。佐那河内村では、しっかりとした校種間の連携ができており、先生方は熱心に外国語教育に取り組んでおられます。この度の研修が、明日からの授業に少しでもお役に立てれば幸いです。

(コーディネーター 竹内 陽子)



## 求められる指導観, 評価観の変革 ～新しい外国語の授業づくりをめざして～



令和4年2月17日(木)に、石井町の浦庄小学校にお招きいただきました。当初は、対面の予定でしたが、コロナ感染拡大の状況を踏まえ、オンラインでの実施となりました。事前に接続テストなどを行い、当日は、「学習指導要領を踏まえた指導と評価」というテーマで、先生方と共に、「言語活動」と「評価」を中心に研修を深めました。

まず、実際に活動をしていただきながらご確認いただいたのが、「実際に英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う活動」(外国語活動・外国語研修ガイドブック)と定義された「言語活動」と、考えや気持ちを伝え合う要素がない「練習」(ゲームやチャンツ)との違いです。さらに、「練習」は不要なものではなく、言語活動を成立させる上で重要な役割をもつということも共有させていただきました。もう一点、お伝えしたのが、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、「使いながら学ぶ、学びながら使う」ことの大切さです。児童の実際の姿を映像でご覧いただいたりSmall Talk を体験していただいたりする中で、「練習を重ねないと話せるようにならない」という、これまでの指導観を変えることの必要性に気付いていただける機会になったのではないのでしょうか。

評価については、「値踏みの評価から支援の評価へ」(高木, 2019)という考え方、つまり評価観の変革が求められていることをお話し、形成的評価とそれに伴う指導改善の重要性についても、実際の児童の姿を通して先生方と一緒に考える時間をもちました。さらに3観点の趣旨や評価方法についても実際の事例をご紹介しました。

研修後には、「今まで不安に思っていた評価でしたが、研修を通して具体的にイメージすることができました」「言語活動において目的や場面、状況が大切であることは意識していましたが、研修の中で体験してみると、こういことだったんだと改めて見直すことができました」などの感想をいただきました。

様々なご対応に追われ日々奮闘しておられる状況の中で、オンラインによる研修に終始熱心にご参加くださった浦庄小学校の先生方のお姿と明るく笑顔に、明日への力をいただいたような気がしました。今後も、先生方と連携させていただきながら、児童の笑顔があふれる新しい小学校外国語教育を創っていくお手伝いのできたらと思います。

(特命准教授 佐藤 美智子)

